

1. はじめに

明治時代に入ると熊本城は陸軍の管轄となり、それまでの在り方を大きく変えることになった。本講座では明治4年から21年に置かれていた熊本鎮台（明治6年まで鎮西鎮台と呼称）について、鎮台兵が暮らした兵営および兵舎に焦点を当てて紹介する。

2. 熊本鎮台とは

- 概 要…明治4年～21年に存在（師団制への移行によって廃止）
全国に6か所存在（明治6年時点）のうちの一つ
九州を管轄
台湾出兵・西南戦争など国内外の戦いで活躍
- 編 制…歩兵・砲兵（+預備砲兵）・工兵（明治9年時点）
民衆との関係…身分差別などから悪感情を抱く民衆が多かった
西南戦争での奮戦を経て評価が好転

3. 鎮台兵が暮らした場所

3-1: 参考資料

『造営法』(国立公文書館蔵)

→1870年に兵学寮より刊行。原書はオランダ語
部屋の使い方・家具の寸法など細かく記載

『兵営略表』(防衛省防衛研究所蔵)

→1873年の資料

兵営の配置図や平面図から構成。当時の兵舎の標準設計に相当か

『熊本鎮台敷地図』(熊本博物館蔵)

→1876年の資料

神風連の乱での被害状況を示した絵図。歩兵営の配置が詳細に描かれている。

『大天守から見た二の丸歩兵営 北側』(公益財団法人文化財建造物保存技術協会蔵)

→1874～75年に撮影された古写真。

『歩兵第四連隊の兵舎―その歴史と保存― 仙台市歴史民俗資料館調査設計の記録』

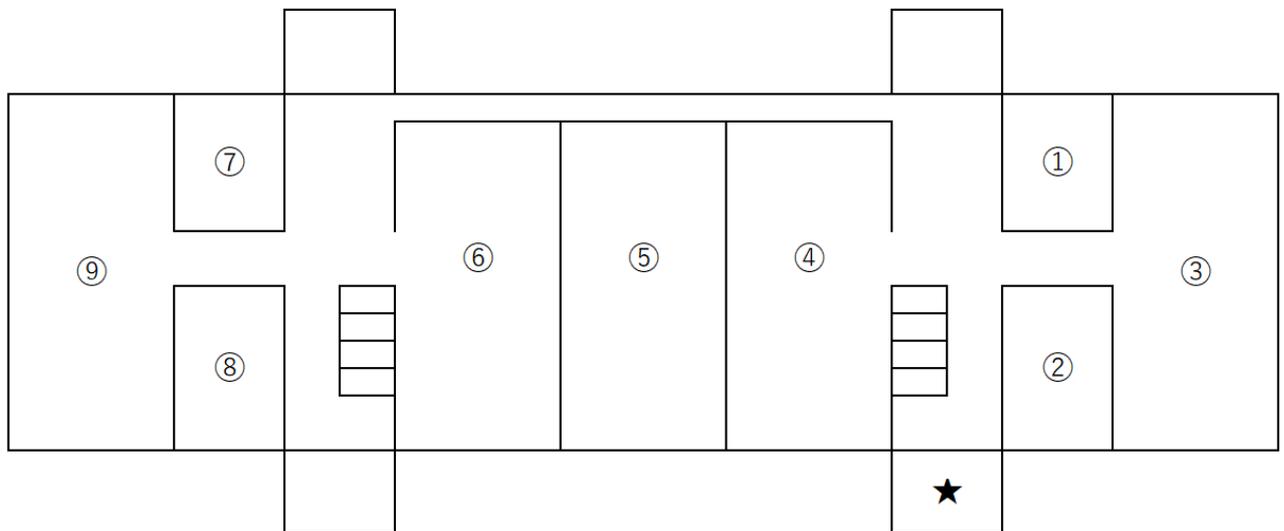
(仙台市民俗資料館 1981)

→仙台鎮台歩兵第四聯隊兵舎（明治7年建設）の復元に伴う報告書

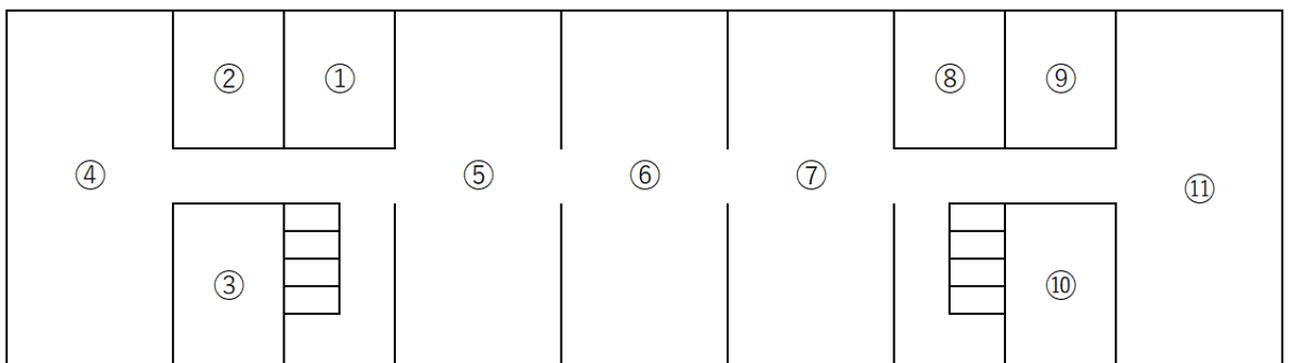
3-2：建物の特徴 ※上記参考資料・類例より

外観		内装	
階数	2階建	部屋	兵卒室 軍曹室 将校居室 事務室
屋根	寄棟造 瓦葺		教授所 養生所 緊固所 など
外壁	漆喰塗大壁 胴蛇腹 隅石	家具	木製ベッド 戸棚 荷物架け 机 椅子
入口	丸みのある屋根		軍刀掛け など
窓	上げ下げ窓	備考	ドアが付くのは軍曹以上の部屋のみ

3-3：平面図 ※上記参考資料より作成



1階部分平面図



2階部分平面図

4. おわりに

建物は中庭を囲むようにコの字型に配置されていた。兵舎で生活のすべてが完結していたわけではなく、賄所や便所などは独立して存在していた。

兵舎は全体としては西洋風のデザインだが、随所に日本の伝統的な技術を用いた部分が見られる和洋折衷の構造をしていた。間取りをみると、1階は兵卒が生活した大部屋が主体である一方、2階部分には将校の居室や部隊の事務室など、重要な機能を持つ部屋が備わっていたことがわかった。

5. 参考文献

- 磯田桂史 2022 『明治期熊本の洋風建築史』 九州大学出版会
- 熊本市 2001 『新熊本市史通史編第五巻近代 I』
- 熊本市 2019 『特別史跡熊本城跡総括報告書 歴史資料編』
- 島内登志衛 1912 『谷干城遺稿 上』 靖献社
- 鈴木治平 舛岡和夫 西野敏信 岡田悟 1981 「旧歩兵第四連隊兵舎の復元資料について その1 外観」「旧歩兵第四連隊兵舎の復元資料について その2 平面」『日本建築学会東北支部研究報告集 37』 日本建築学会東北支部
- 仙台市歴史民俗資料館調査設計グループ 1981 『歩兵第四連隊の兵舎—その歴史と保存— 仙台市歴史民俗資料館調査設計の記録』 東北工業大学工業意匠学科
- 『造営法』 JACAR (アジア歴史資料センター) 請求番号 189-0075、明治三年 (国立公文書館)
- 2023年2月10日最終アクセス
- 「兵営略表」 防衛省防衛研究所 請求番号 陸軍省第四局 M6~1 40 史資料名：明治6年6月7月、第四局
- 『六管鎮台表国事兵額並配分表刻成届』 JACAR (アジア歴史資料センター) 請求番号 公01420100、明治8年 (国立公文書館) 2023年2月15日最終アクセス